

## 福島第一原子力発電所現地確認報告書

### 1 確認日

令和5年10月10日（火）

### 2 確認箇所

多核種除去設備等処理水測定・確認用設備（K4タンクエリア）、移送設備（多核種移送設備建屋）、希釈設備（5・6号敷地護岸ヤード）

### 3 確認項目

多核種除去設備等処理水希釈放出の状況

### 4 確認結果の概要

第2回目の多核種除去設備等処理水（以下、「ALPS処理水」という。）の放出が、測定・確認用タンクC群を対象に、10月5日から実施されていることから、ALPS処理水希釈放出設備の状況を確認するとともに、今回のALPS処理水移送に使用されている処理水移送ポンプ（B）のストレーナ清掃作業の状況を確認した。（図1）（前回確認日：令和5年10月5日）

#### ア ALPS処理水希釈放出設備の状況

（測定・確認用タンク）

- ・放出中のC群タンクの連結弁、タンク出口弁及びタンク入口弁（いずれも手動弁）は、「全開」状態で施錠されており、「操作禁止札」が付けられていた。A群及びB群タンクの連結弁は「全閉」状態で施錠されていた。（写真1）
- ・確認した範囲では、弁や配管からの漏えいは認められなかった。

（処理水移送ポンプ）

- ・処理水移送ポンプ（B）が稼働しており、異音の発生等の異常は認められなかった。（写真2）

（海水移送ポンプ）

- ・海水移送ポンプ（B）及び（C）が稼働しており、異音の発生等の異常は認められなかった。（写真3）

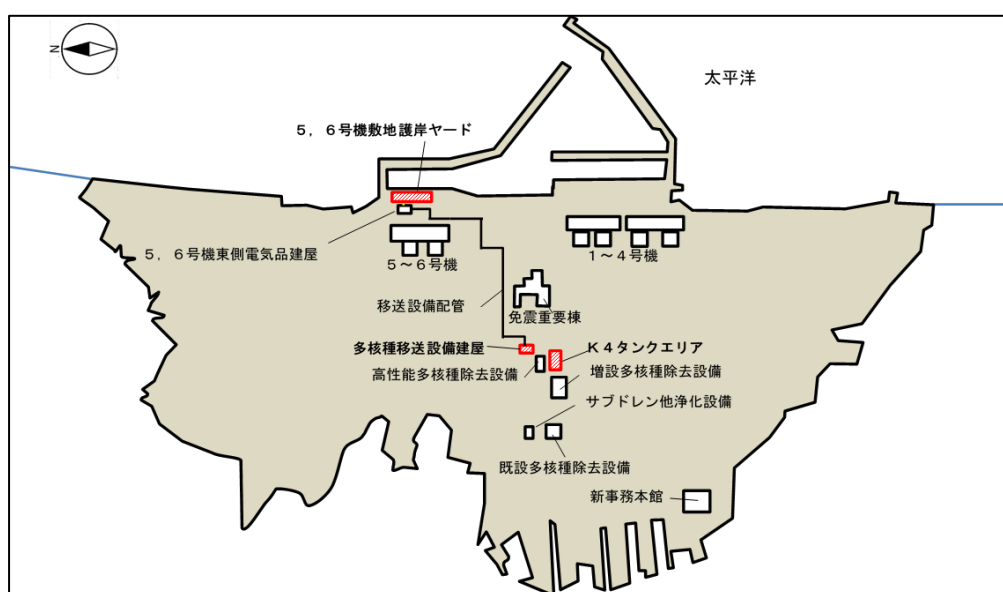
（放流立坑（上流水槽、下流水槽））

- ・希釈後のALPS処理水が、上流水槽と下流水槽の境界堰を越流し、上流水槽から下流水槽に流下していた。
- ・下流水槽の水位に上昇は見られず、問題なくトンネルを通じて放出口からALPS処理水が海洋に放出されているものと推測された。

#### イ 処理水移送ポンプ（B）のストレーナ清掃作業の状況

- ・処理水移送ポンプ（B）の吸込圧力の低下が確認されたことから、ストレーナ<sup>※</sup>の清掃作業が行われた。

- ・ ストレーナの清掃は、ハンドルを回して内蔵されているブラシによりスクリーンの付着物を除去し、ドレン水（ALPS処理水）とともにストレーナの外に排出する方法で行われた。（写真4）
  - ・ ストレーナ清掃作業により、スクリーンの付着物（粒子状のサビのような物質）が回収され、処理水ポンプ（B）の吸込圧力は回復した。
  - ・ 清掃作業に伴う漏えいは認められなかった。
- ※ストレーナ：ごみ、異物をスクリーン（ろ過用の金網）を通して除去するための配管部品。本構成ではポンプに異物が入るのを防ぐために設置されている。



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1-1)  
C群タンク連結弁「全開」の例



(写真1-2)  
C群タンク (C-1) 出口弁「全開」の状況



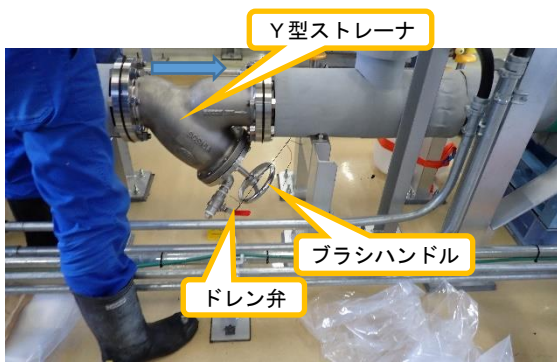
(写真1-3)  
B群タンク連結弁「全閉」の例



(写真2)  
処理水移送ポンプ (B) の状況



(写真3)  
海水移送ポンプ (C) の状況



(写真4-1)  
処理水移送ポンプ（B）のY型ストレーナの状況



(写真4-2)  
ストレーナ清掃作業の状況

### 3 プラント関連パラメータ等確認

本日確認したデータについて、異常な値は確認されなかった。